

大網白里町の 財政事情

町では、「大網白里町財政事情の作成及び公表に関する条例」に基づき、皆さんから納めていただいた税金等がどのように使われたか、また、使う予定なのかを知っていただくために、『財政事情』を年2回（5月と11月）公表しています。今回は平成21年度当初予算の状況と平成20年度最終予算の状況をお知らせします。

☎ 財政課財政班 ☎(70)0310

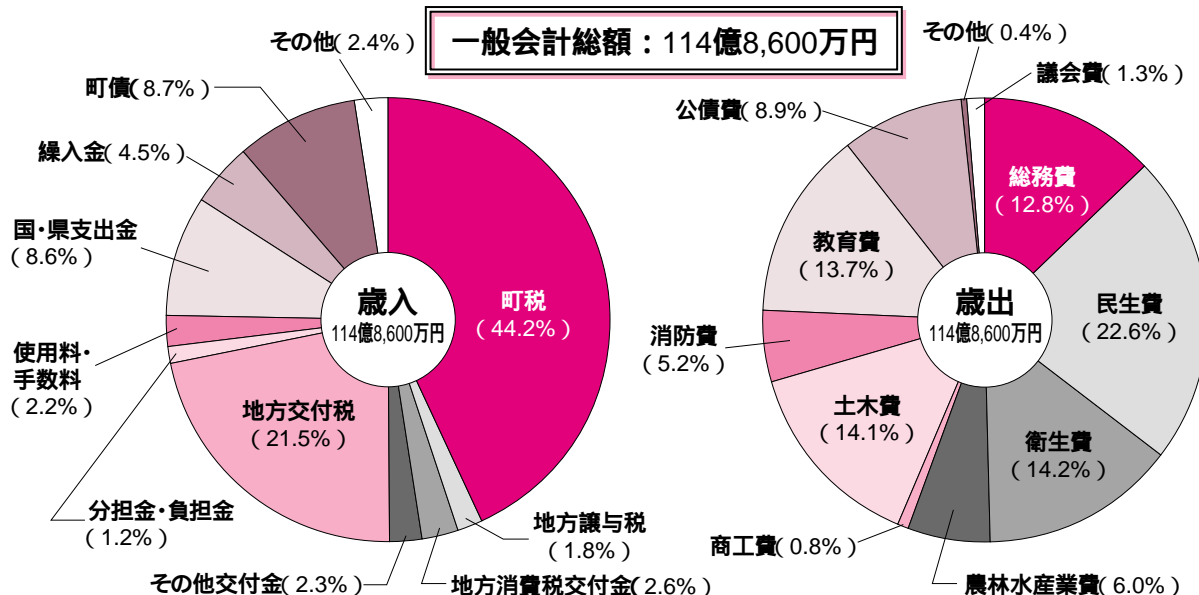
平成21年度一般会計当初予算の状況

平成21年度の一般会計当初予算は、114億8,600万円となりました。町民1人あたりに換算すると227,784円の予算規模となります。また、歳入の根幹をなす町税収入は50億7,564万円を見込んでおり、これは、町民1人平均で100,657円の負担をしていただいている計算となります。

平成21年4月1日現在の住民基本台帳人口50,425人で計算

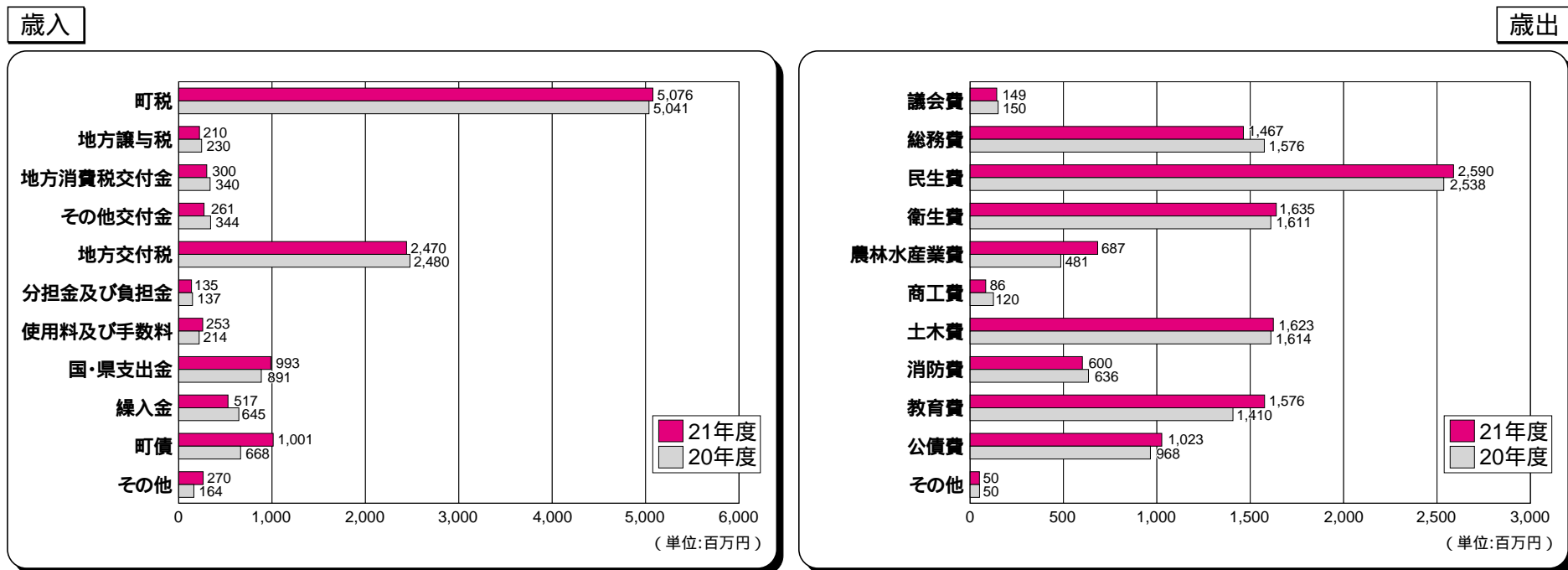
《平成21年度の主要事業》

1. 小中学校の耐震化対策事業の推進
(最重点事業)
2. 少子化対策・子育て支援事業の充実
3. 都市基盤整備の推進
4. 道路・排水整備の推進
瑞穂地区土地改良区域内整備事業の推進
生活道路・排水の整備推進



一般会計当初予算の前年度比較

平成21年度の一般会計当初予算は、各施策に優先順位をつける中で、予算全体の見直しを行い、『住民の安全・安心な生活』を重視した積極的な編成を行った結果、対前年度比3.0%増となりました。予算総額が増額となるのは5年ぶりです。歳入は、景気の悪化等の影響で一般財源総額（町税、地方譲与税、各種交付金、地方交付税の合計）が減少することが見込まれる中、臨時財政対策債等の地方債を最大限活用することにより、基金繰入金を抑制しています。一方、歳出は、小・中学校の耐震化対策事業をはじめ、少子化対策・子育て支援事業や土地改良区域内整備事業等の重点事業に優先的に予算配分したことで、教育費や民生費、農林水産業費が増額となっています。



歳入1万円の使いみち

一般会計の歳入の使いみちを目的別に見てみると、民生費がもっとも高く、次いで衛生費、土木費がほぼ同額で並んでいます。民生費が高くなる要因としては、出産子育て支援事業等の少子化対策・子育て支援事業の充実を図っていることや、義務的な扶助費が増加し続けていることが挙げられます。また、大網白里アリーナ建設事業債や臨時財政対策債の元金償還が始まった影響で、公債費も増加傾向にあります。

カッコ内は対前年度当初予算時との増減

合計 10,000円	民生費 ・少子化対策・子育て支援事業 ・障害者(児)扶助費 ・高齢者福祉 ・保育所、学童保育の運営 等 2,255円 (-20円)	衛生費 ・乳幼児医療費助成 ・健診等を通じた保健推進 ・環境保全やごみ処理 ・上水道 等 1,423円 (-22円)	土木費 ・道路、河川の整備・管理 ・都市整備の推進 ・公園管理 ・下水道 等 1,413円 (-34円)
教育費 ・小・中学校の耐震化対策 ・学校教育施設の整備・管理 ・幼稚園、小・中学校教育の推進 ・生涯学習やスポーツ振興 等 1,372円 (+108円)	総務費 ・町有財産の管理 ・徴税、戸籍関係経費 ・その他一般行政経費 等 1,277円 (-136円)	公債費 ・借入金・利子の返済 890円 (+22円)	農林水産業費 ・農業振興 ・農業基盤整備 ・農道整備 等 599円 (+168円)
消防費 ・消防団運営費 ・消防施設の整備 ・防災対策の推進 等 522円 (-48円)	議会費 ・町議会の運営 130円 (-4円)	商工費 ・海岸整備 ・商工振興 ・観光振興 等 75円 (-33円)	その他 ・災害復旧費 ・予備費 44円 (-1円)